

小笠原諸島調査区 森林植生調査書

S3_新旧植物対応表_小笠原

表の説明

- ・昭和初期と現代で、特に相違点がみられる科名、種名（和名）をリストした。また、翻訳時に留意点があった種についても掲載した。
- ・左の列から順に「昭和初期の植物名称：調査書原本で表記されている昭和初期の植物名称」、「原本での初記載頁：当該植物名称が、原本の本文もしくは表で初めて登場する頁」、「現代の植物名称：対応する現代の植物名称」、「備考：名称対応にかかる留意点等」を示した。
- ・各植物名は、基本的に原本における記載順で示した。

出典

Ohba(1999) Malvaceae. In : Iwatsuki, K., Bouford, D. E. and Ohba, H. (eds.). Flora of Japan, Volume IIc Angiospermae, Dicotyledoneae, Archichlamydeae (c). Kodansha Ltd. Tokyo. 134–137.

大橋 広好 (2016) ホルトノキ科. 大橋 広好・門田 裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉 浩司編 改訂新版日本の野生植物3 バラ科～センダン科, 平凡社, 143–144.

大橋 広好・加藤 英寿 (2016) フトモモ科. 大橋 広好・門田 裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉 浩司編 改訂新版日本の野生植物3 バラ科～センダン科, 平凡社, 271–273.

大橋 広好・加藤 英寿 (2017) アカテツ科. 大橋 広好・門田 裕一・邑田 仁・米倉 浩司・木原 浩編 改訂新版日本の野生植物4 アオイ科～キョウチクトウ科, 平凡社, 182–183.

大森 雄治 (1999) 日本のドクダミ科・コショウ科・センリョウ科植物. 横須賀市博物館研究報告. 自然科学: Science report of the Yokosuka City Museum, (46), 9–21.

豊田 武司 (2003) 小笠原植物図譜 (増補改訂版) . アボック社, 522pp.

豊田 武司 (2014) 小笠原諸島固有植物ガイド. ウッズプレス, 624pp.

津山 尚 (1980) ムニントビラは小笠原島に野生しない. 植物研究雑誌55(10), 317–319.

山城 考 (2017) キョウチクトウ科. 大橋 広好・門田 裕一・邑田 仁・米倉 浩司・木原 浩編 改訂新版日本の野生植物4 アオイ科～キョウチクトウ科, 平凡社, 308–320.

米倉 浩司 (2016) イラクサ科. 大橋 広好・門田 裕一・木原 浩・邑田 仁・米倉 浩司編 改訂新版日本の野生植物2 イネ科～イラクサ科, 平凡社, 341–352.

昭和初期の植物名称	原本での 初記載頁	現代の植物名称	備考
ウラボシ科	33	シダ類のウラボシ科	当時はほとんどのシダ植物がこの科に含まれていたが、分子系統に基づいて細分化されたため、現在のウラボシ科とは属・種の数が大きく異なる。
十字科	33	十字花科、アブラナ科	
アカザ科	34	ヒユ科	APGIII分類体系による。
ユキノシタ科	34	アジサイ科	当時のユキノシタ科に含まれていたアジサイ属は、その後の分類体系でアジサイ科に分離された。
イバラ科	34	バラ科	
ヘンルーダ科	34	ミカン科	
タカトウダイ科	34	トウダイグサ科	
ツルナ科	35	ハマミズナ科	APGIII分類体系による。
ウマノアシガタ科	35	キンボウゲ科	
シナノキ科	35	アオイ科	APGIII分類体系による。
ツバキ科	35	ツバキ科・サカキ科	当時のツバキ科に含まれていたヒサカキ属は、その後の分類体系でサカキ科（ペンタフィラクス科）に分離された（ヒメツバキ属はツバキ科）。
オトギリソウ科	35	テリハボク科	当時のオトギリソウ科に含まれていたテリハボク属は、その後の分類体系でテリハボク科に分離された。
テンニンクワ科	35	フトモモ科	
ゴマノハグサ科	35	ゴマノハグサ科・オオバコ科	当時ゴマノハグサ科に含まれていた一部の植物は、オオバコ科などに移されたので注意が必要。
スイカズラ科	35	レンプクソウ科	当時スイカズラ科に含まれていたガマズミ属やニフトコ属（タイワンソクズ）は、その後の分類体系でレンプクソウ科に分離された。
繖形(さんけい)科	36	繖形花科、セリ科	
ジャクナゲ科	36	ツツジ科	
ヤブコウジ科	36	サクラソウ科	APGIII分類体系による。
クロテツ	36	アカテツまたはコバノアカテツ	本稿では大橋・加藤(2017)に従い、「アカテツ」もしくは「コバノアカテツ」に該当するものとした。
アカテツ	36	ヒメフトモモ（別名アデクモドキ）	大橋・加藤(2016)ではヒメフトモモを対応させたが、ヒメフトモモはアデクの変種とする見解もある（豊田2014）。
ヒイラギ科	36	モクセイ科	
クマツヅラ科	36	シソ科	当時クマツヅラ科に含まれていたムラサキシキブ属やハマゴウ属は、APGIII分類体系でシソ科に移された。
唇形(しんけい)科	36	唇花科、シソ科	
アダン科	36	タコノキ科	
禾本(かほん)科	36	イネ科	
シュロ科	36	ヤシ科	
ユリ科	36	ユリ科・サルトリイバラ科など	当時ユリ科に含まれていた植物は、その後の分類体系で複数の科に細分されたため、対応が難しい。
ギンゴウクワン	37	ギンネム	
シュウガカツリ	38	シュロガヤツリと思われる	
ネムリグサ	38	オジギソウの別名	
シャジクソウ	38	シロツメクサの仲間	
木麻黄	38	トクサバモクマオウ	
ムニントベラ	39	該当種不明	津山(1980)によれば、1935年にムニントベラ <i>Pitosporum bicarpelatum</i> Nakai et Tuyamaが記載されたものの、 <i>P. undulatum</i> Vent.の東京における栽培品の誤認によるものであると結論づけているため、既存の分類群の何に該当するかは不明。父島固有のトベラ属植物としては、オオミノトベラとコバトベラが挙げられる。
オガサワラカゲイチゴ	39	オガサワラカジイチゴ	原本39頁では、父島列島特産種として「オガサワラカゲイチゴ」が記載されている。「オガサワラカジイチゴ」の誤記もしくは訛りと思われるが、同種は硫黄列島のイオウトウキイチゴの別名であることから、再検討を要する。
ハチジョウイチゴ	39	該当種不明	チヂマキイチゴに対応するかもしれない。
オガサワラゴシュユ	39	ムニンゴシュユの別名	
マルミノハマボウ	39	テリハハマボウ	原本39～40頁では、父島列島特産種として「マルミノハマボウ」が記載されている。本稿ではテリハハマボウを対応させたが、オオハマボウとする見解もある（Ohba1999：豊田2014）。
ガクバナ	40	ガクアジサイの別名	伊豆諸島や本州にも広く分布するため、硫黄列島特産ではない。
ヤエヤマハマナツメ	40	ヤエヤマハマナツメ	南西諸島にも分布するため、硫黄列島特産ではない。

昭和初期の植物名称	原本での 初記載頁	現代の植物名称	備考
シマハマボウ	40	オオハマボウ	原本40頁では、硫黄列島特産種として「シマハマボウ」と「イオウトウフヨウ」が列記されている。昭和初期当時は、硫黄列島のオオハマボウを小笠原群島のものとして区別するために別名をつけていたように見える。
オウガストノキ	40	該当種不明	アカテツ科 <i>Chrysophyllum</i> 属の植物だが、小笠原自生種に該当する植物が無い。
モクビャクコウ	40	モクビャクコウ	南西諸島にも分布するため、硫黄列島特産ではない。
シマボウ	41	モモタマナの別名	
ヒメタニワタリ属	45	ハウピンダ属	原本45頁では小笠原諸島固有属として紹介されているが、固有属ではない。
シロテツ属	45	アワダン属	原本45頁では小笠原諸島固有属として紹介されているが、固有属ではない。
ムニンヤツデ属	45	ヤツデ属	原本45頁では小笠原諸島固有属として紹介されているが、固有属ではない。
シマウツボ属	45	ハマウツボ属	原本45頁では小笠原諸島固有属として紹介されているが、固有属ではない。
ツゲモドキ属	45	ハツバキ属	
イス属	45	イスノキ属	
ニオイグサ属	45	該当種不明	
セボリーヤシ属	45	ノヤシ属	
トキワセندان	46	セندانと思われる	
ヤマアサ	46	オオハマボウ	原本79頁では「ヤマアサ（オオハマボウ）」と列記されている。
コンタンモドキ	46	リュウキュウコクタン	原本46頁での名称は、コクタンモドキの誤記と思われる。
ハナガサノキ	46	ムニンハナガサノキかハハジマハナガサノキ	
ハマボウ	46	オオハマボウ	海岸林であるAdハスノハギリ群叢の標準地調査区において、構成種の一つとして記載されていることから（原本185頁）、オオハマボウを対応させた。オオハマボウはカイガンイチビと呼ばれており、テリハマボウより海岸寄りの立地に生育している。
シマシャリンバイ	46	シャリンバイ	
クワ	52	オガサワラグワ	
イチビ	52	モンテンボク（別名テリハマボウ）	
チギ	53	シマホルトノキ	小笠原諸島には、硫黄列島以外に生育する「シマホルトノキ」と硫黄列島特産のホルトノキの変種「チギ」がある（大橋2016）。昭和初期の調査当時においても「シマホルトノキ」と「チギ」の2種が存在することは認識されていたが（原本143頁）、当時のデータ集計の際には両者は区別せず同一種として扱われた。
オガサワラシユスラン	53	ムニンシユスランの別名	
イスノキ	56	シマイスノキ	
オガサワラシラタマカズラ	58	オオシラタマカズラ	
ムニンテイカカズラ	58	テイカカズラ	豊田（2014）の植物目録ではオキナワテイカカズラを対応させているが、山城（2017）ではテイカカズラを対応させている。
シシラン	59	アマモシシランかムニンシシランと思われる	
クリハラン	59	ヌカボシクリハランと思われる	
キノボリシダ	59	ツルキジノオ（オガサワラツルキジノオ）と思われる	
カイガンイチビ	60	オオハマボウ	
ピロウ	59	オガサワラピロウ	
スナザサ	69	クロイワザサ	
チデミザサ	75	エダウチチデミザサ	原本で「エダウチチデミザサ」と標記されている場合もあった（例えば原本53頁）。
オガサワラモクマオ	77	オガサワラモクマオ	原本では「ヲガサワラモクマヲ」と「モクマヲ」の2つの標記があったが、どちらも「ヤナギバモクマオ」の変種である「オガサワラモクマオ」（米倉2016）を対応させた。
シロテツ	77	オオバシロテツ	小笠原にはシロテツ・アツバシロテツ・オオバシロテツが知られ、原本139頁で「3種の区別は容易ではないため、3者合わせて一つとした。」と書かれている。本稿で「シロテツ」とされているものの多くは、植生タイプからオオバシロテツの可能性が高いと思われる。原本で「オオバシロテツ」と標記されている場合もあった（例えば原本55頁）。

昭和初期の植物名称	原本での初記載頁	現代の植物名称	備考
ハチジョウシダ	77	オガサワラハチジョウシダ	
オニヤブソテツ	77	ムニンオニヤブソテツ	
オオタニワタリ	77	ヤエヤマオオタニワタリ	小笠原諸島に自生するオオタニワタリ類はヤエヤマオオタニワタリと考えられる。
オオバテイカカズラ	77	テイカカズラ	豊田(2014)の植物目録ではオキナワテイカカズラを対応させているが、山城(2017)ではテイカカズラを対応させている。
スズメノナガビエ	78	オガサワラスズメノヒエの別名	
ムニンタマシダ	79	ヤンバルタマシダの別名	
ネズミモチ	85	ムニンネズミモチ	
マルバヤブニッケイ	86	オガサワラヤブニッケイ(別名コヤブニッケイ)	
エノキ	86	ムニンエノキ	
シラタマカズラ	89	オオシラタマカズラ	
テイカカズラ	93	テイカカズラ	豊田(2014)の植物目録ではオキナワテイカカズラを対応させているが、山城(2017)ではテイカカズラを対応させている。
ヘラアンペライ	96	ヒラアンペライ	ヒラアンペライの訛りと思われる。
イヌグス	97	オガサワラアオグス(ムニンイヌグス)	
シマムラサキ	99	オオバシマムラサキ	
モクマオ	99	オガサワラモクマオ	原本では「ヲガサワラモクマオ」と「モクマオ」の2つの標記があったが、どちらも「ヤナギバモクマオ」の変種である「オガサワラモクマオ」(米倉2016)を対応させた。
チヂマヤツデ	104	ムニンヤツデ	
バカトリグサ	106	該当種不明	
ヤツデ	109	ムニンヤツデ	
莎草(ささめくさ)科	116	カヤツリグサ科	
マルバイスノキ	123	シマイスノキ	
シマフウトウカズラ	129	フウトウカズラ	フウトウカズラの変種として記載されたが、変異が連続的で区別は難しい(大森1999)。
ウラジロエノキ	130	ウラジロエノキ	「本島固有の常緑高木」と書かれているが、諸島外にも広く分布する。
大戟(たいげぎ)科	142	トウダイグサ科	
モクマオウ	175	トクサバモクマオウ	
アブロード	189	オガサワラポチョウジ	「イエローウッド(yellow wood)」が訛って「ヤロード」になったといわれていることから(豊田2003)、オガサワラポチョウジの英語名「アップルウッド(apple wood)」の訛りと推定したが、原本でオガサワラポチョウジと標記されている場合もあった(例えば原本159頁)。
ヤブニッケイ	209	オガサワラヤブニッケイ(別名コヤブニッケイ)	
タマナ	215	テリハボク	
モクセイ	215	シマモクセイの間違いと思われる	
アオガシ	218	オガサワラアオグスカコブガシと思われる	アオガシ(ホソバタブ)は小笠原に自生しない。
オオバシラタマカズラ	220	オオシラタマカズラ	
マサキフジ	220	テイカカズラ	
オオバフウトウカズラ	220	タイヨウフウトウカズラ	
マルバナワシログミ	221	オガサワラグミと思われる	
ミヤマシケンダ	221	オオシケンダと思われる	
ヒロハハナヤスリ	223	コヒロハハナヤスリ	